

絆を強めてきた日加関係

カナダと日本は、過去70年以上にわたりビジネスパートナーおよび同盟国として、より良い世界の構築を目指して協力しあい、太平洋をはさんだ隣国としてダイナミックな関係を保ってきました。

19世紀後半に国際舞台に登場した両国は、革新的な活動によって工業国として成長し、世界の檣舞台での存在を確立しました。当初から、日本とカナダは互いに相手について学び、友情を深め、確固とした貿易関係の基礎を築き上げました。

日本は1928年、オタワに公使館を開設。一方、カナダは日本市場の重要性とアジアの新興大国としての日本の役割を認識し翌1929年、東京に公使館を開きました。しかし1930年代の動乱の国際情勢の中で、日加関係も緊張の度を深めていき、1941年、太平洋戦争の勃発とともに外交関係は厳しい局面を迎えました。

1945年、戦後間もなくカナダの外交代表部が東京に復帰しました。高名な外交官、ハーバート・ノーマンの大

きな努力を始めとして、カナダは日本が戦後の困難な時期を切り抜ける過程での助力を惜しみませんでした。1952年、サンフランシスコ講和条約の発効で、日加両国は再び関係を完全に修復するに至りました。

日本が再度、国際社会においてその地位を構築しようとする中、カナダは日本の主要支持国として活動しています。カナダは、1955年に日本のGATT(関税貿易一般協定)加盟を支持し、翌56年には国連加盟申請に賛成票を投じました。そして日本は80番目の国連加盟国となっています。1963年には日本のOECD(経済協力開発機構)加盟をカナダは歓迎しました。

1970年代半ば以降、両国は先進国首脳会議の場で、世界が直面する経済的・政治的課題を率先して解決するために協力して活動してきました。協力の場は、国連や世銀、IMFはもちろんのこと、その他さまざまな国際機関にも及んでいます。1989年以降は、アジア太平洋経済協力会議(APEC)のメンバーとして協力し、95年

の大阪会議、97年のバンクーバー会議をそれぞれ開催しています。

2国間関係に絞ってみると、日加関係は1950年代以降、著しい進展を示してきました。多様化する経済関係を中心に、政治、文化、そして人と人との交流が支えています。相互貿易はたくましく拡大し、投資や事業提携も盛んに行われています。日本とカナダは比較的問題のない関係を過去・現在にわたって保ってきました。たとえ若干の齟齬があったとしても、良好な人間関係に支えられて、話し合いと忍耐、そして信頼で克服しています。

今日、日加関係は、経済人や政府関係者はもとより、学者、アーティスト、若者、そしてあらゆる分野の人々によってエネルギーに推進されています。政府間の協定や協力機構、ビジネス提携、姉妹関係の構築、そしてあらゆる領域での組織間協力など、広く深い関係の網の目により、力強くゆるぎないものになっています。



The Emperor's cousin, Prince Sadanaru Fushimi on an official visit to Canada in 1907.

Le cousin de l'Empereur, le Prince Sadanaru Fushimi lors d'une visite officielle au Canada en 1907.

1907年、明治天皇の御従兄弟、伏見宮貞愛親王がカナダを公式訪問された。